

カトリック仙台司教区・カリタスジャパン 東日本大震災救援・復興活動ニュースレター

発行人：平賀徹夫 編集：小松史朗
〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-12
カトリック仙台司教区事務局
Tel.022-222-7371 Fax022-222-7378
1) 義援金振替口座：02260-9-2305
名義：カトリック仙台司教区本部事務局
2) 支援金振替口座：00170-5-95979
名義：カリタスジャパン

今回は、いわき教会の震災直後からの取り組みについての報告と、仙台は畳屋丁教会の活動を写真と共に掲載します。それから先日仙台で行われた女子修道会総長管区長会総会の模様をお届けします。

いわきの被災者のために！

昨年の大震災以降、有志のボランティアチームとしていわき教会「ボランティアチーム平・堂根」は、さいたま教区サポートセンターに協力しつつ、いわき市郊外の中央仮設で傾聴活動を無我夢中で行ってきました。

平賀司教様が年頭書簡で、「谷間におかれた人に寄り添い支えるように」と呼びかけられたことに共感し、「平・堂根」のメンバーは、気がかりとなっていた地元いわき市の被災者の方々に、この取り組みを始めようとの声があがりました。そんなとき、市内



それでは、歌いましょうか？！

で一番大きな内郷雇用促進住宅に、いわき沿岸部で津波被害に遭われた方々が集中的に入居していることがわかりました。早速下見に行き、14階建ての建物の大きさにまず驚きました。ほどなく自治会長さんとお会いすることができ、245世帯の皆様の実状について、お話をうかがうことができました。やがて、私



エプロンが妙に似合う氏家神父！

たちがボランティアに入る許可も得られ、月に2回サロンを、年に2、3回炊き出し&イベントを開かせていただくことになりました。この活動のために、さらにボランティアを募り、教会全体の理解と協力を得るために、「カレーパーティーの日」を設け、皆で同じテーブルを囲み、そこでカンパもお願いしました。その結果、実践部隊のボランティアも今では20人を超え、新年度からはこのチーム「平・堂根」が教会内の各部と同等の組織と認められ、予算もつくようになりました。

皆さんに、少しでも喜んでいただけるようにおいしいお茶とお菓子を出すことを基本に考え、3月初旬の第一回目サロンは、上品な和菓子をメインに、お茶やコーヒーなどの品質、入れ方などに気を配り、皆様に楽しんでいただきました。その一方で私たちは傾聴活動を心がけ、この住宅に住む皆様が、サロンに集うことによって、お互いが親しくなれる場所になる役割を果たしていることは嬉しいことです。また、この集いの最後には季節の歌と一緒に歌うことも好評で、皆で童心にかえり、感動のひとときを味わっております。これからは私たちの目指すサロンに向かって歩みを進めていきたいと思ひます。

いわき教会 佐々木三代子

イベントで大いに盛り上がる！

畳屋丁教会では、小教区単独でのボランティア活動が難しいことから、一本杉教会と西仙台教会の活動に参加する形で取り組んでいます。

活動内容については、すでに第20号で紹介されていますが、活動の大きな柱は2つあります。一つは、毎週水曜日に各教会が交代で行う、仮設住宅での茶話会を中心にした傾聴活動です。もう一つは、月に1回程度開催する様々なイベントです。

もちろん茶話会でのゆったりとした時間を楽しみにしてくださっている方々も多いのですが、イベントでも大いに盛り上がってくださいます。節分の豆まきをしたときは、鬼の扮装がすばらしく、まるで本物の鬼が来たように、参加者も本気で豆を投げて大いにストレスを発散したようでした。最近では、プリザーブドフラワー教室を開催し、予想を上回る多くのみなさんが参加してくださいました。手先が器用な方々が多く、オリジナル溢れる作品をそれぞれご自宅に持ち帰り、飾っていただきました。



節分で鬼は外！福は内！

また、仮設住宅の皆さんは、ボランティアを待つだけでなく、自主的活動として、しじみ貝を使って、「福幸かえる」と名づけたカエル顔のかわいい携帯ストラップ作りなどにも励んでおられます。先日、「いつもありがとう」との一言を添えて、手作りのストラップをいただきました。ほんの小さな出来事でしたが、ボランティア活動を通して人のつながりを感じました。これも神さまのお導きだと改めて感謝いたしました。



皆さん真剣な表情です！

初心を忘れず、自己満足におちいることのないように気をつけながら、これからも、困っている人たちに少しでも寄り添って共に歩いていけたらと思っています。

畳屋丁教会 佐藤 栄美子

シスター方の挑戦！第2ラウンドへ



平賀司教司式でミサ。バックは志津川

女子修道会総長管区長会の総会の後、45名の参加者で「被災地祈りの旅」に出発しました。震災から1年が過ぎ、震災の跡が見られなくなった仙台市内の街並みを通り、一路被災地へ出発。瓦礫は撤去されたものの、土台のみの所や倒れかけた家々、いまだに十分に手が入っていない所など、被災した沿岸部を目のあたりにしながら、祈りとミサを捧げてきました。

参加者は石巻、米川の各ベース、南三陸、気仙沼を訪れ、それぞれのベースのスタッフや地元で復興支援をされている方々から活動の状況と取り組みについてお聞きしました。



気仙沼南町商店街の坂本さんと！

ベースで活躍されている方々の分かち合いは、まるで派遣された弟子たちが戻ってきて、イエス様に報告する姿を思い起こされるように、自分たちの体験を生き生きと分かち合ってくださいました。また、地元で復興活動をしている方々からは、自分たちの町を、何とかしなくてはという熱い思いが伝わり、心揺さぶられる思いがしました。

被災者のため、こうしてはられないと地元でがんばっている方々のため、支援活動をしている方々のために、彼らが先が見えない中で、燃え尽きないよう、心がおれないよう共にあり続けるために、これからも祈っていきたくと思っています。

オタワ愛徳修道女会 管区長 シスター佐藤 久美子